


2021年3月期決算 ご説明資料

 ユシロ化学工業株式会社

TYO 5013

2021年5月24日



YUSHIRO CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

INDEX

2021年3月期 決算業績概要 Results 3

新型コロナウイルス感染拡大による業績への影響	4
2021年3月期 実績（連結）	5
2021年3月期 業績概要（連結）	6
2021年3月期 営業利益（連結）増減要因分析	7
海外連結子会社売上高（現地通貨）アメリカ・ブラジル・メキシコ・中国	8
海外連結子会社売上高（現地通貨）タイ・インド・マレーシア・インドネシア	9
貸借対照表（連結）	10
キャッシュ・フロー計算書（連結）	11
株主還元	12

新中期経営計画 New medium-term management plan 13

前中期経営計画の振り返り	14
前中期経営計画の成果と課題	15
事業環境認識	16
新中期経営計画の位置づけ	17
基本方針と基本戦略	18
自動車向け顧客基盤の強化	19
顧客層と製品領域の拡大	20
協業による顧客層の拡大	21
自己修復性素材の事業化	22

BtoBtoC市場への参入	23
航空機部品・医療部品市場への参入拡大	24
ICT化による業務改革	25
ESG経営の推進	26
経営目標	27
財務・投資戦略	28
財務・投資戦略	29
配当方針	30

2022年3月期 業績予想 Forecast 31

業績予想の前提	32
2022年3月期 業績予想（連結）	33
2022年3月期営業利益（連結）増減要因分析	34
海外連結子会社売上高予想（現地通貨）アメリカ・ブラジル・メキシコ・中国	35
海外連結子会社売上高予想（現地通貨）タイ・インド・マレーシア・インドネシア	36
新規事業の売上高予想	37

《参考資料》 Appendix 39

会社概要	40
ユシログループ 国内外ネットワーク	41
財務データ推移	42

2021年3月期 決算業績概要



Results



©2021 YUSHIRO CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.
All Rights Reserved.

新型コロナウイルス感染拡大による業績への影響

- 新型コロナウイルス感染拡大で各セグメントで業績が悪化するも中国セグメントは4月以降、他のセグメントは6月以降回復基調に。

日本

- 各自動車メーカー及び部品メーカーの稼働率低下の影響で4月・5月は大きく売上高を下げるも、稼働率改善に伴い6月以降回復基調に。

南北アメリカ

- クオリケム社は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けにくい分野（医療機器分野、電子部品分野等）の割合が高い為、減収幅は小幅。
- 他の拠点は6月以降回復するも自動車生産台数減少の影響で業績は低下。

中国

- 1月～2月は各自動車メーカー及び部品メーカーの生産停止で業績が悪化するも4月以降急激に回復し、コスト削減効果もありセグメント売上高・営業利益ともに前期を上回る。

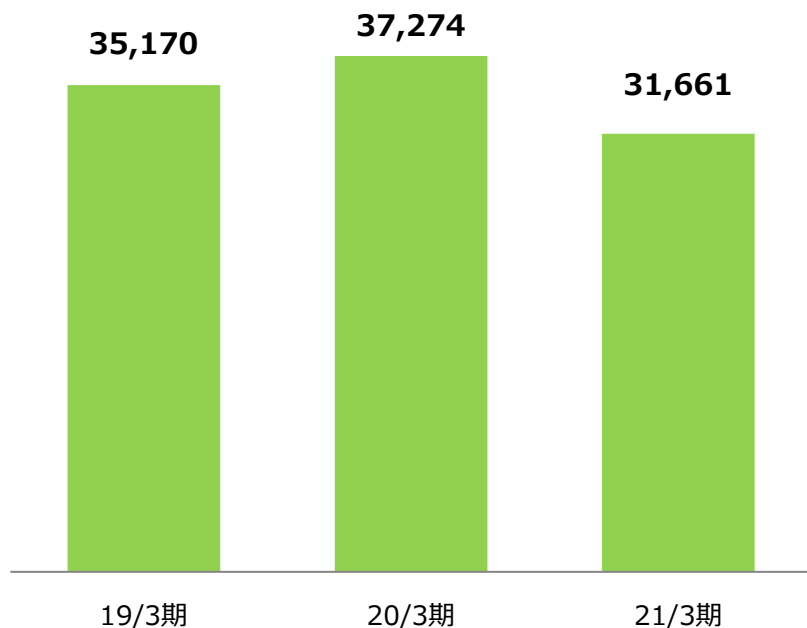
東南アジア / インド

- タイは8月以降、マレーシアは自動車販売税免除措置の効果もあり6月以降に、インドネシアは若干遅れて9月以降回復基調に。
- インドは7月以降急激に回復し12月は過去最高売上を更新。

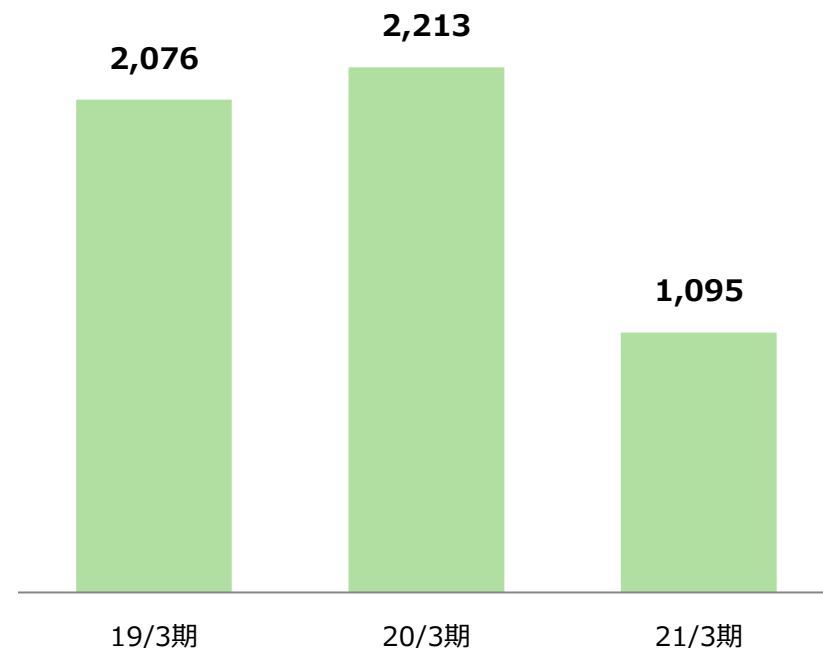
2021年3月期実績（連結）

- 売上高は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、顧客の稼働率が低下した為減収。
- 営業利益は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による減収の為減益。

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



2021年3月期業績概要（連結）

- 売上高は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で日系自動車メーカー及び部品メーカーの稼働率が低下した為、前期比15.1%の減収。
- 営業利益は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で売上が減少した為、固定費の吸収ができず、前期比50.5%の減益。
- 経常利益は、営業利益の減少に加え持分法投資利益も減少した為、前期比44.2%の減益。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、投資有価証券の売却もあったが子会社の評価損もあり前期比48.9%の減益。

(百万円)

	20/3期	21/3期 実績	前期比	
			増減額	増減率
売上高	37,274	31,661	△5,613	△15.1%
営業利益	2,213	1,095	△1,118	△50.5%
経常利益	2,718	1,517	△1,200	△44.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,913	978	△934	△48.9%

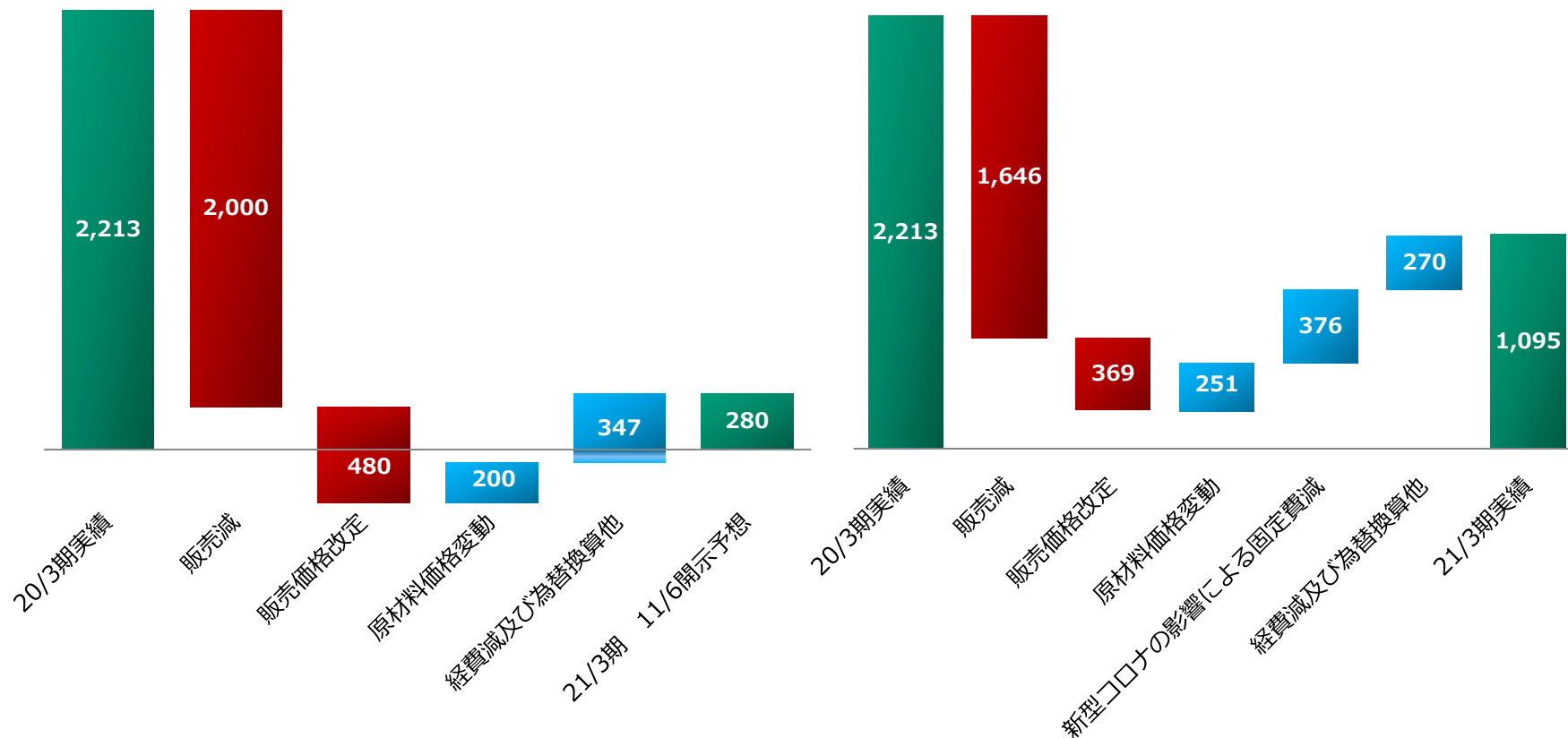
2021年3月期 営業利益（連結）増減要因分析

- 国内及び海外での自動車生産台数減少による販売減少幅が当初予想を下回り、かつ新型コロナウイルスの影響により固定費の減少があったことにより、営業利益は予想を大きく上回った。

当初予想（百万円）

※2020年11月6日開示

実績（百万円）

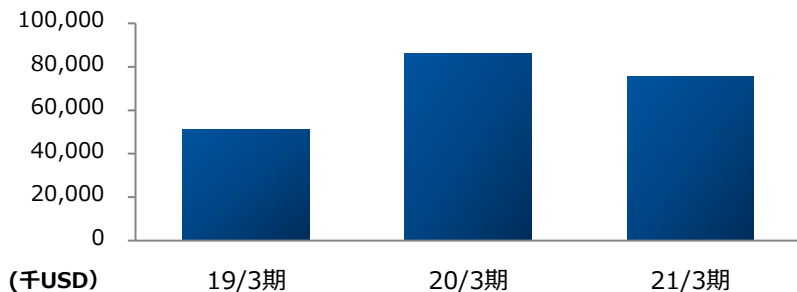


海外連結子会社売上高（現地通貨） アメリカ・ブラジル・メキシコ・中国

アメリカ



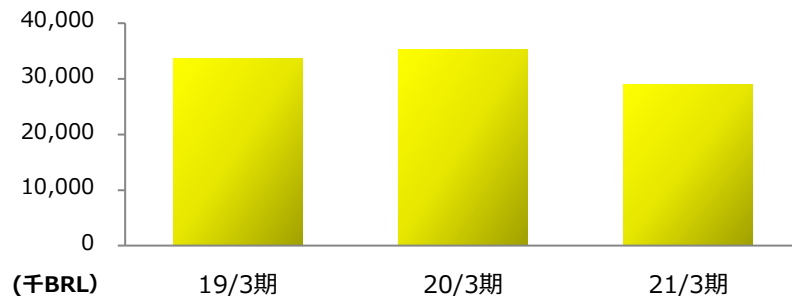
自動車メーカーの稼働停止・減産の影響が大きく、前期比12.6%の減収。



ブラジル



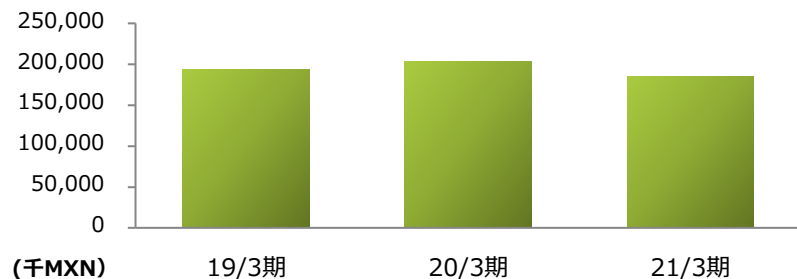
各自動車メーカーは4月から5月にかけて生産を停止。稼働再開以降の稼働率の回復も緩やかで、感染拡大の影響が長引いた。前期比17.9%の減収。



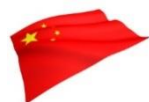
メキシコ



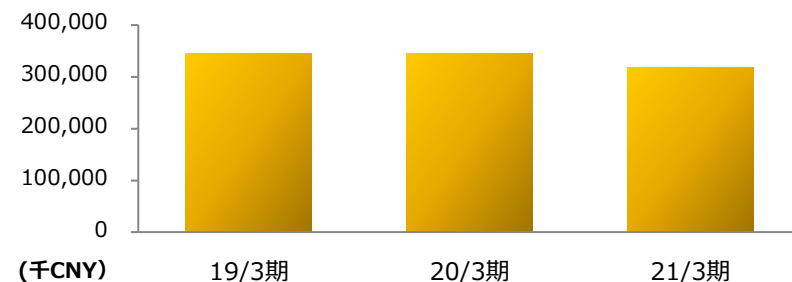
日系自動車メーカーは4月から5月下旬まで稼働を停止したが、7月以降は前期並みの水準で推移。前期比9.0%の減収。



中国



2月、3月の売上高は低迷したが、4月以降は好調な自動車生産に支えられ売上高は堅調に推移。前期比8.0%の減収。

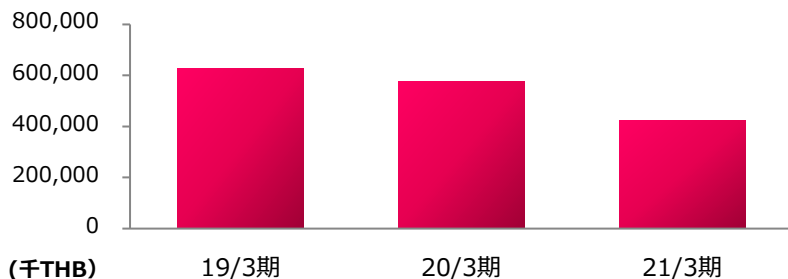


海外連結子会社売上高（現地通貨）タイ・インド・マレーシア・インドネシア

タイ



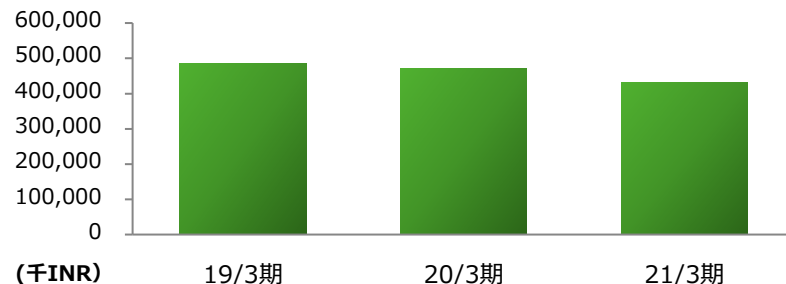
日系自動車メーカーの稼働停止・減産により、4月以降の売上高が減少。自動車生産の回復に伴い、9月以降の売上高は前期並みの水準で推移。前期比26.6%の減収。



インド



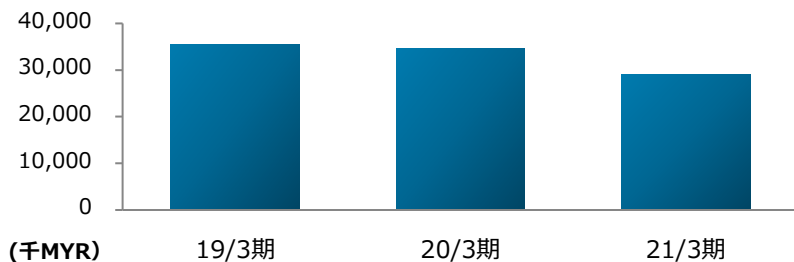
ロックダウンによる主要顧客の稼働停止の影響で、1Q(4～6月)の売上が大幅に減少。9月以降は主要顧客の稼働率が好調で、売上高も前期を上回る水準。前期比8.1%の減収。



マレーシア



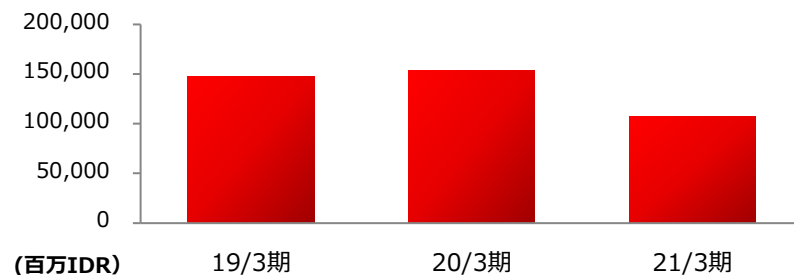
ロックダウンによる各自動車メーカーの操業停止の影響で、2Q(4～6月)の売上高が大幅に減少。7月以降は自動車生産の回復により、売上高は前期並みの水準で推移。前期比16.3%の減収。



インドネシア



日系自動車メーカーは4月から5月にかけて生産を停止。感染拡大の影響が長引いたことで、売上高は前期の水準まで届かない状況が続いた。前期比30.4%の減収。



貸借対照表（連結）

- 資産は、短期借入金が増加した影響で現金及び預金が増加。
- 負債は、短期借入金が増加。

（百万円）

	20/3期末	21/3期末	差額
資産合計	47,320	48,369	+1,048
負債合計	15,453	16,199	+746
純資産合計	31,867	32,170	+302

キャッシュ・フロー計算書（連結）

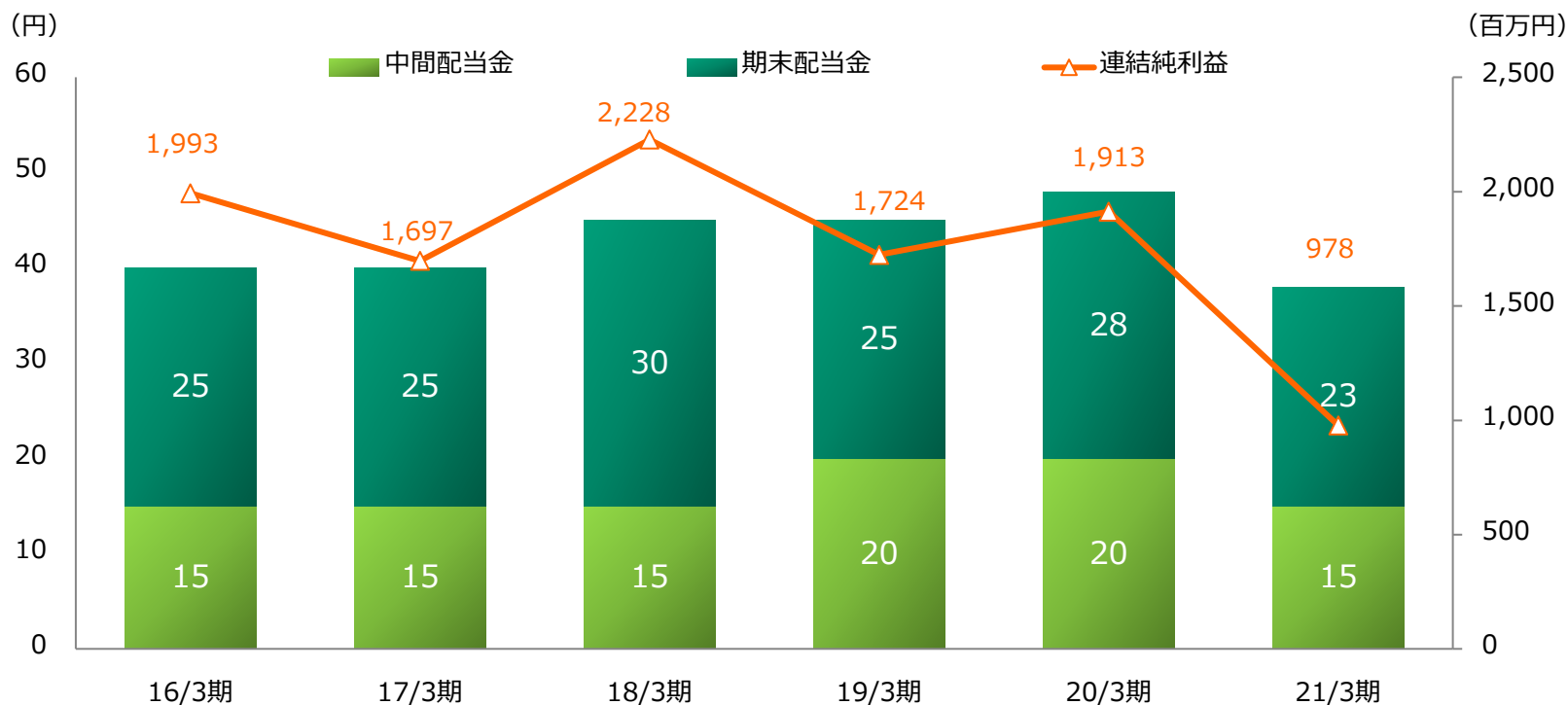
- 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の影響で変動。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等の影響で変動。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の収入による影響で変動。

(百万円)

	20/3期末	21/3期末	差額
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,829	1,574	△1,254
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,111	△555	+555
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,508	208	+1,716
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6	△251	△244
現金及び現金同等物の増減額	202	976	+773
現金及び現金同等物の期首残高	6,947	7,150	+202
現金及び現金同等物の期末残高	7,150	8,067	+917

株主還元

- 連結配当性向30%を一つの目安とし、投資とのバランスを考慮しながら安定的な配当を目指します。



配当性向 (連結) 27.8% 32.2% 27.4% 35.4% 34.1% 52.8%

純資産配当率 (連結) 2.0% 2.0% 2.1% 2.0% 2.2% 1.7%

1株当たり配当金 40円 40円 45円 45円 48円 38円

A dynamic splash of water droplets and liquid against a reddish-pink background, with ripples on the surface below.

新中期経営計画

A background pattern of light green and white hexagons, resembling a molecular or chemical structure.

New Medium-Term Management Plan

前中期経営計画の振り返り

- 売上高は国内・海外ともに大きく伸長。
- 収益面はコスト競争力強化に努めたものの、原材料価格の高騰や人件費上昇による海外での収益悪化が響く。

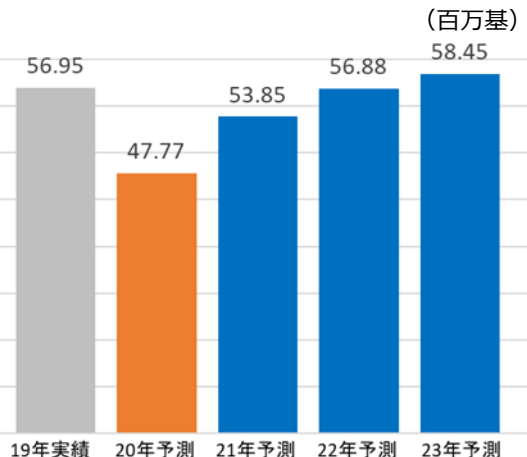
前中期経営計画 2018/3期～2020.3期					(百万円)
	17/3期 実績	20/3期 実績	増減		21/3期 実績
売上高	29,605	37,274	+25.9%	新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し 中計公表を延期	31,661
営業利益	2,437	2,213	△9.2%		1,095
経常利益	3,017	2,718	△9.9%		1,517
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,697	1,913	12.7%		978

前中期経営計画の成果と課題

前中期経営計画の基本方針	前中計の成果	継続課題
① グローバルでの販売力強化	<ul style="list-style-type: none">● 米クオリケム社の買収により海外での新たな販路、新たな製品分野を獲得	<ul style="list-style-type: none">● 米クオリケム社との連携強化
② コア事業での競争力強化	<ul style="list-style-type: none">● ワイヤー加工油剤、飲料缶成型用油剤を開発	<ul style="list-style-type: none">● 自動車産業への販売先依存から脱却
③ グループ間シナジーを最大限に発揮できる体制構築	<ul style="list-style-type: none">● グループ会社間での情報活用に向けてICT環境の整備を開始	<ul style="list-style-type: none">● ICT環境の全社的な整備を通じた生産性向上と業務効率化

【自動車業界】

《当社拠点のある世界のエンジン生産台数予測》

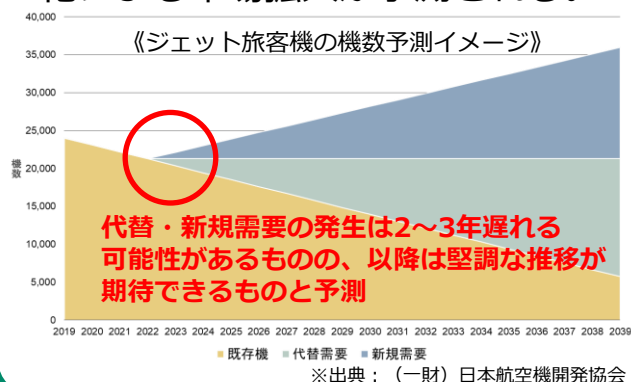


※当社調べ ※昨年9月時点の情報に基づくデータ

- 自動車生産は2021年緩やかに回復を続け、2022年中には2019年並みの実績に戻ると想定。
- 電気自動車の伸びは世界的に増加が予測されるが、本中計期間中では自動車生産全体に占める割合は少なく、業績への影響は軽微と予測。

【米国航空機、医療機器市場】

航空機市場はコロナ影響を短期的に受けるが旅客機減少を貨物機増加で回復は早いと推測。医療機器も高齢化による市場拡大が予測される。



コスト上昇のリスク

新型コロナウイルス感染が収束しない場合、原油価格の変動、物流不安定化による原料価格上昇などの懸念がある。

■グループの業績は自動車市場の回復及び米国クオリケム社の伸びもあり、**2022年中には2019年実績に戻る見込み。**

■今後のコスト上昇のリスクに対応する為、収益性（コスト削減、製品価格改定など）の改善を行う。

新中期経営計画の位置づけ

新中期経営計画では業績・収益性を改善し、次の成長に向けた基盤を作る。

2021/3
新型コロナウイルス感染の拡大

2025/3以降
持続的な成長に向けての新たな
戦略を策定する予定

RECOVER⁺ PLUS

中期経営計画
2022/3-2024/3

前中期経営計画
2018/3-2020/3

基本方針と基本戦略



市場環境や外部環境に影響されにくい経営体質

- 金属加工油剤分野における自動車産業依存からの脱却
- ビジネスモデルの再構築

ESG戦略の推進

- 環境目標の策定
- 産学連携のさらなる推進
- 資本効率を意識した経営

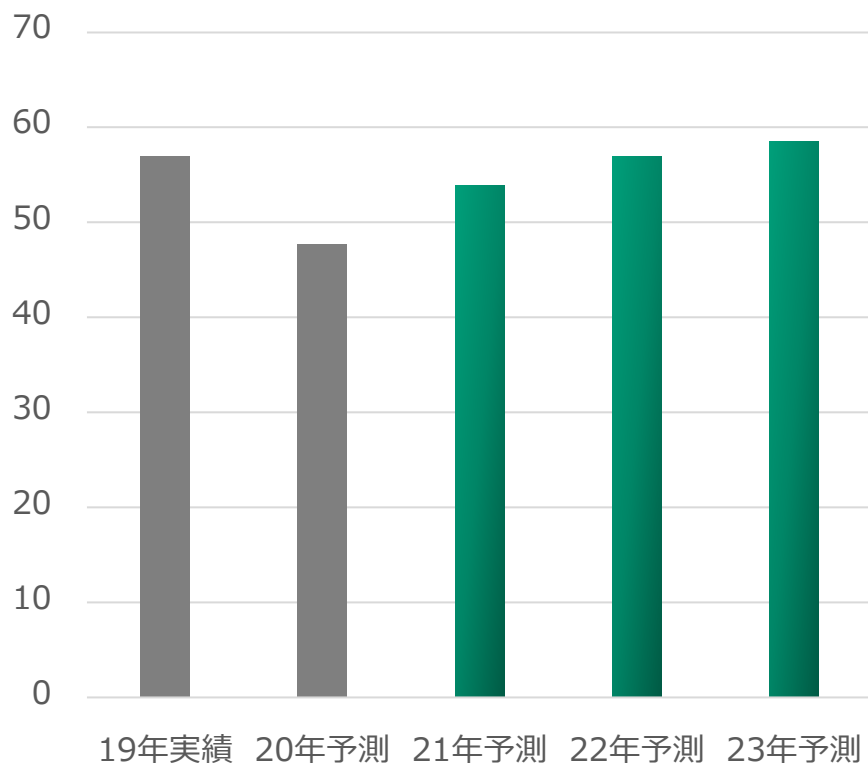
2
収益性の改善

- 航空機部品・医療部品市場への参入拡大
- ICT技術の活用による業務の合理化・効率化

自動車向け顧客基盤の強化

新型コロナウイルスの流行により、
自動車の生産台数は一時落ち込むが、
21年から回復を予想

当社拠点のある世界のエンジン生産台数（百万基）

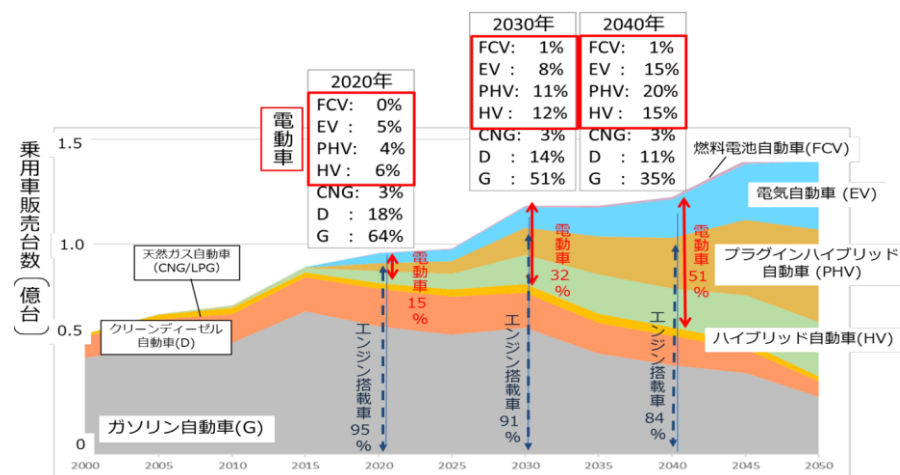


※当社調べ。昨年9月時点の情報に基づくデータ

EV市場が伸長するも、
エンジン搭載車の需要は依然として
底堅く推移していくことが予想される

IEAが示した技術普及シナリオ

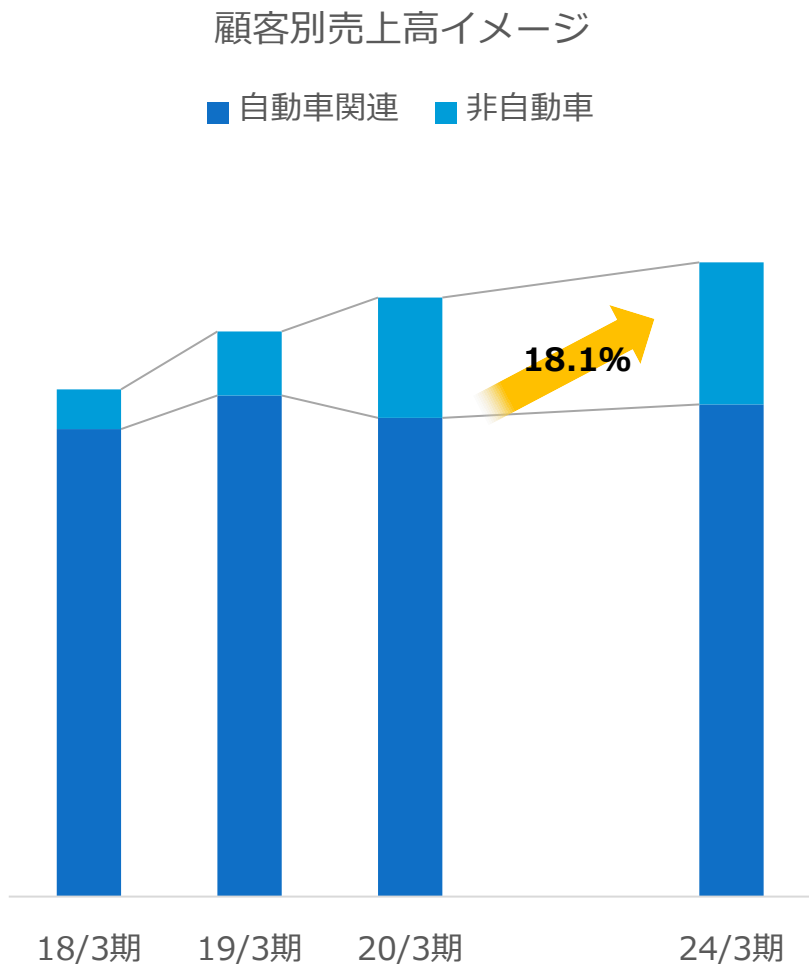
(平均気温上昇の▲2℃達成のケース)



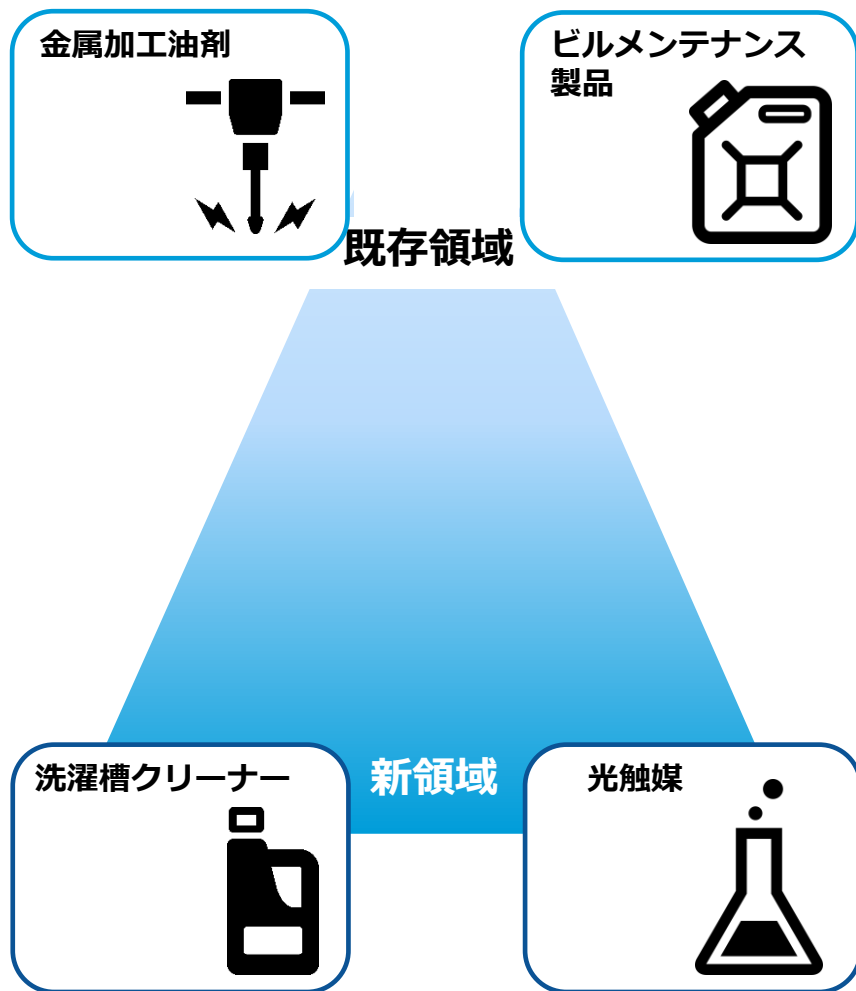
出典：IEA「Energy Technology Perspectives」2017に基づき経済産業省作成（「自動車新時代戦略会議」第1回資料）
https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/jidosha_shinjidai/pdf/001_01_00.pdf

顧客層と製品領域の拡大

非自動車へのアプローチを強化し
自動車産業への偏重を是正



技術力を活かした新たな製品開発により
新領域を開拓



協業による顧客層の拡大

ユシロ・アメリカとクオリケム社との協業により、北南米地域でのシェア獲得、効率的な経営を目指す

ユシロ・アメリカ 既存法人



クオリケム社
18年に買収



シナジー効果の実現

クオリケム社の米系企業への人脈、販売ルート（代理店）の活用
原材料の共同購入、物流の効率化によるコスト削減
ケミカルマネジメントの活用による新規顧客の獲得
両社の独自技術の融合で競争力アップ

自己修復性素材の事業化

販売先を確保し、事業化を目指す

事業化に向けた活動内容

開発 ※特許取得済み

- ① ウィザードゲルの非劇物化 (ウィザードゲルHD[※])
- ② ウィザードゲルの水分非含有化 (ウィザードエラストマー[※])
- ③ 高純度モノマーの開発 (ウィザードモノマー)
- ④ ポリマー用添加剤の開発 (開発中)



適用

- ・医療
- ・玩具
- ・化粧品 等
- ・電子部品
- ・塗料、接着剤
- ・3D造形品 等
- ・細胞培地用ゲル
- ・特殊原料 等
- ・既存プラスチック
- ・ゴム 等

事業化

ビジネスモデル

製品販売

受託合成

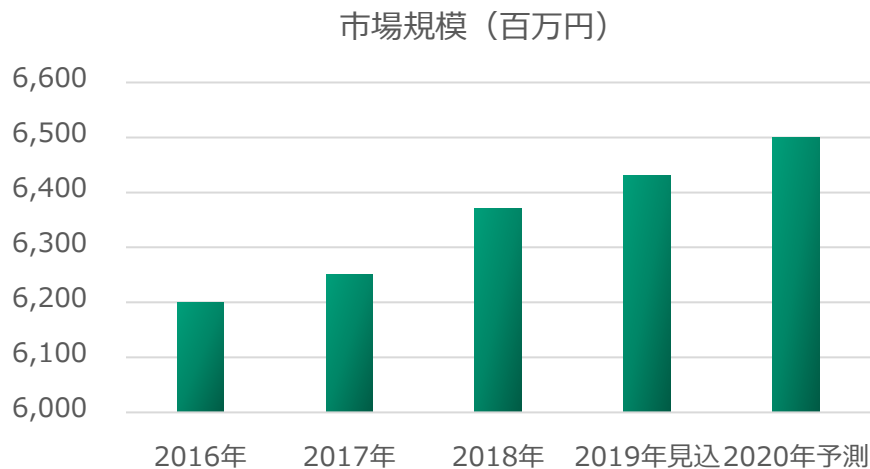
設備投資

前中期計画
開発に必要な分析機器の購入約75百万円 (共同研究費用含む)


当中期計画
・セミプラント建設 約1.2億円
・プラント建設 約15億円

BtoBtoC市場への参入

● 洗濯槽クリーナー 衛生意識の高まりなどでマーケットは年々拡大傾向



● 光触媒 多くの分野に応用し、売上を伸ばしていく想定



当社の光触媒

- 除菌・抗ウイルス可能
- 室内蛍光灯で除菌・消臭効果を発現
- ビタミンなどの食べられる物質で構成
- 水溶性で適用範囲が広い

既存顧客向けに
消臭・除菌剤を販売

除菌・消臭スプレー

ホテル、飲食店向け
除菌剤

家電製品

畜産、農業、水産の
衛生工場

22年3期2Q

航空機部品・医療部品市場への参入拡大



航空機分野

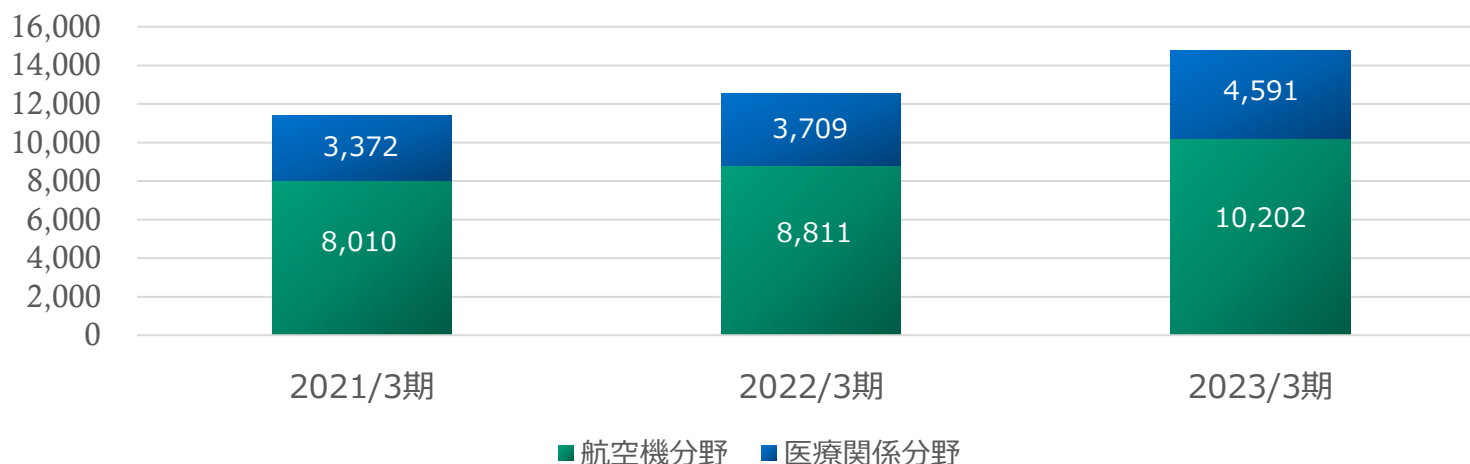
ボーイング社での全ての加工分野の認証を取得
Ex) 塗装鋼板、高張力鋼板、アルミ合金、チタン部品



医療関係分野

安全性の高い合成油ベース製品の認証取得

クオリケム社の売上高予測(千USD)



ICT技術を活用することで業務の合理化・効率化を行う

社員の生産性向上

ICT環境を構築し、社員の意識改革、生産性向上を図る
(モバイル機器の活用、テレワーク、シェアオフィスが活用できる環境のICT化による業務改革整備など)

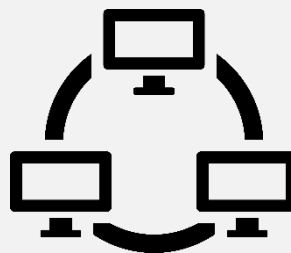
- モバイル機器の活用で営業スタイルの変革(会社でしかできない業務及び移動時間の削減)
- テレワーク・シェアオフィスが活用できる環境の整備



経営の効率化

ICT化による経営の効率化(情報のデジタル化、販売力・生産力の強化など)

- アナログデータのデジタル化推進
- 情報のリアルタイム化推進
- ICT化による販売力、生産力の強化



海外拠点との情報共有

海外拠点とリアルタイムでの情報共有化を実現し経営判断のスピードを加速させる。

- 海外拠点と日本との相互間での情報の見える化実現



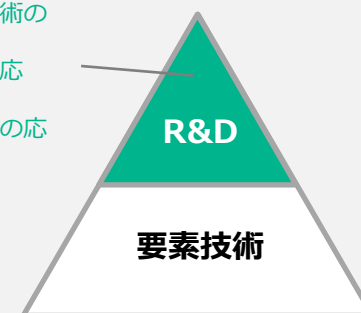
Environment

- 環境基本方針実現を目指した具体的な目標策定を実施
環境基本方針…「私たちは、人と地球にやさしい技術を通して、持続的発展可能な環境調和型社会の実現を目指し、次世代に住みよい地球と豊かな社会を引継ぐように努めます」という当社の環境に対する理念

Social

- 産学連携で社会課題解決に向けた製品を開発することで貢献

- 環境と共存する新技術の開発
- ワールドワイドに対応できる製品開発
- バイオテクノロジーの応用開発
- IT産業分野への参画

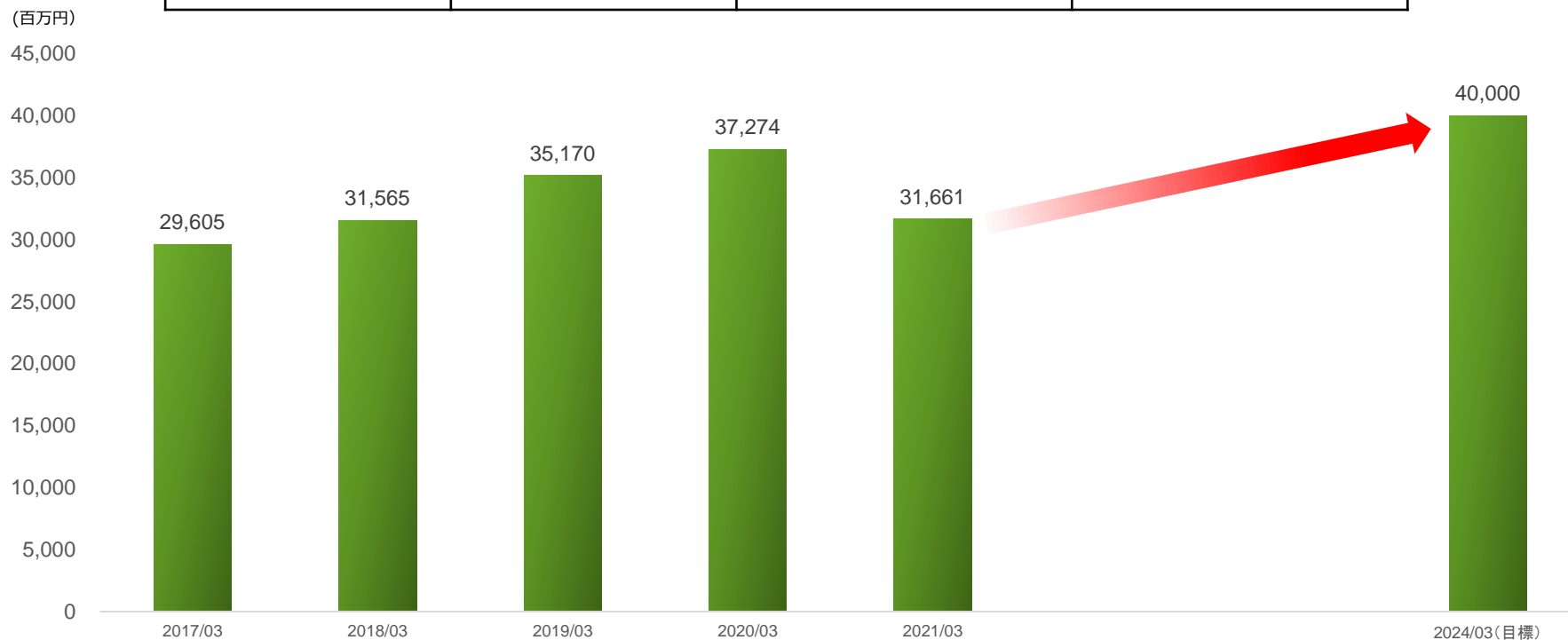


Governance

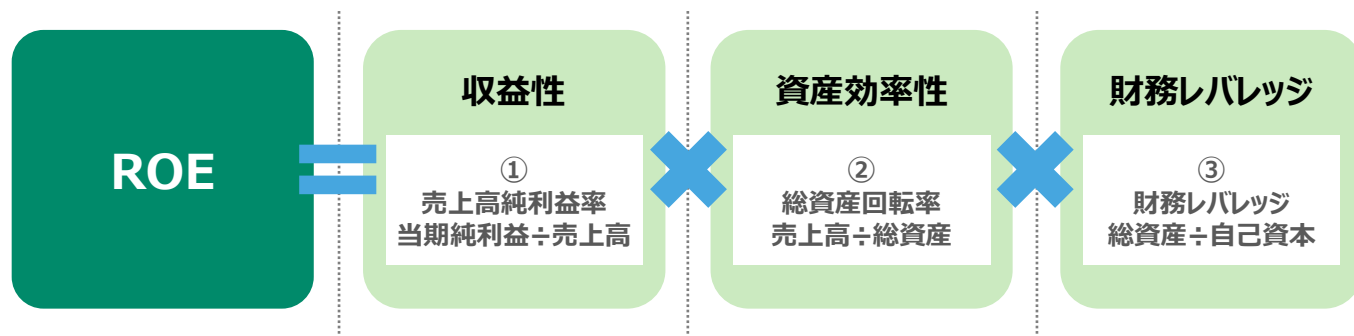
- ROE目標8%に設定し、資本効率を意識した経営を推進
- 投資家との対話強化を実施
- サステナビリティ委員会の設置を検討

経営目標

	2020年3月期	2021年3月期	2024年3月期
売上高	372億円	316億円	400億円
営業利益	22億円	10億円	31億円
経常利益	27億円	15億円	35億円
当期純利益	19億円	9億円	23億円
ROE	6.4%	3.3%	8%



24/3期ROE8%以上を目指す

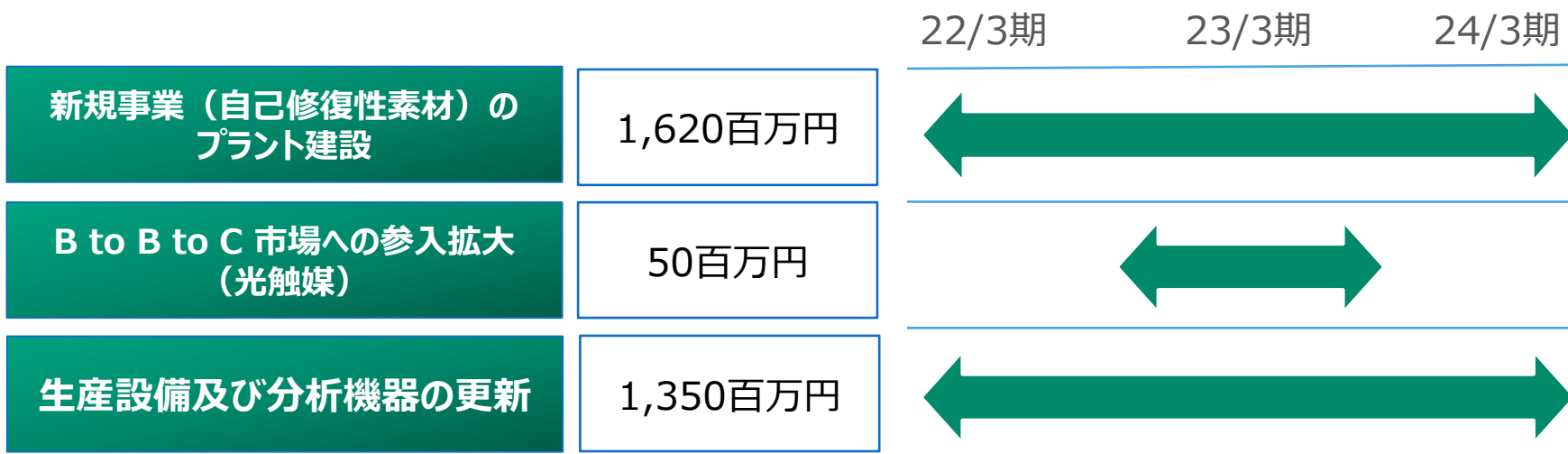


24/3期	8.0%	➔	➔	➔
21/3期	3.3%	3.1%	0.7回	1.6倍
20/3期	6.4%	5.1%	0.8回	1.6倍

財務・投資戦略

- 営業キャッシュ・フロー
- 政策保有株の売却
- 固定資産の見直し

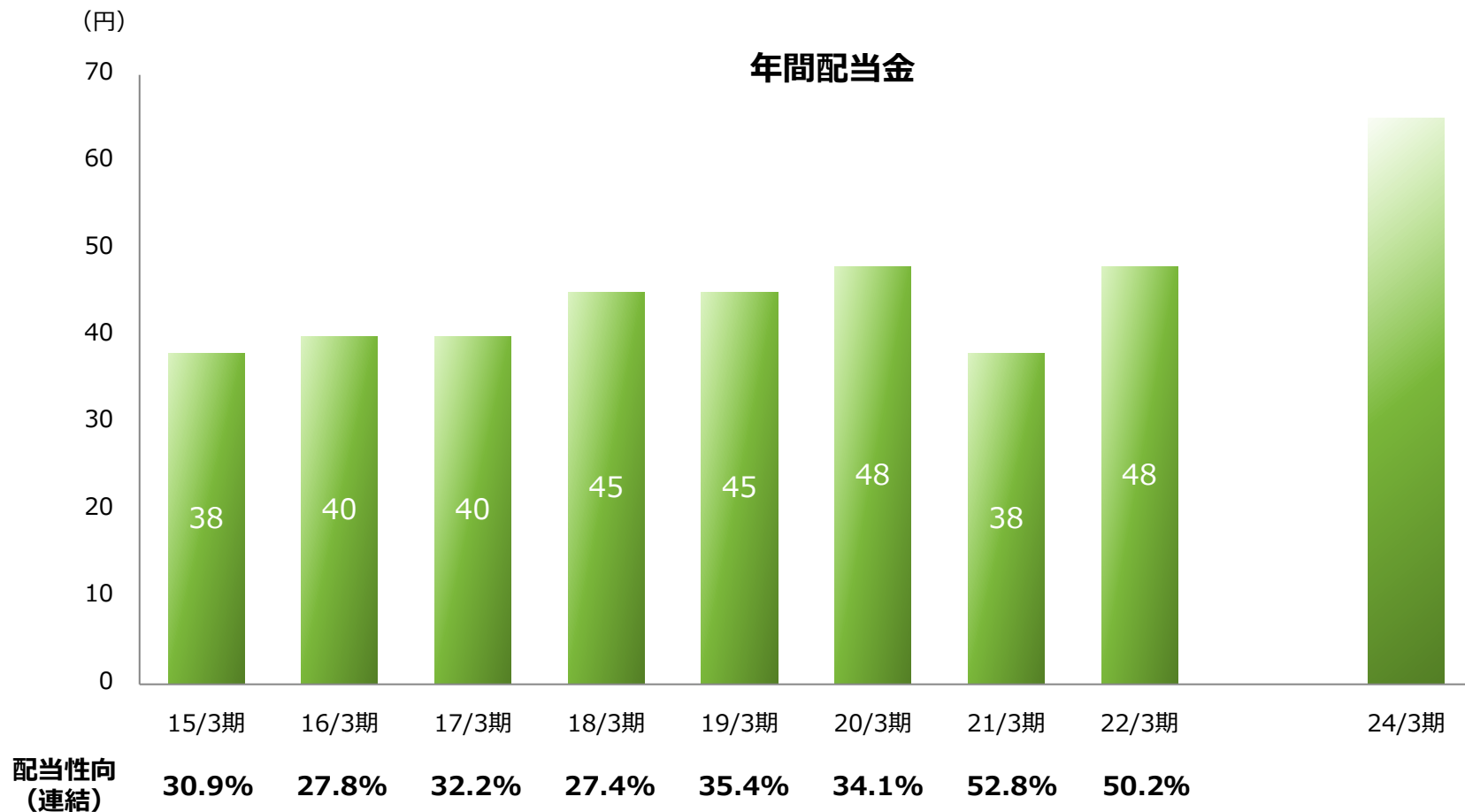
新中期経営計画期間中に3,020百万円のキャッシュを創出



企業価値向上と持続可能な成長に繋がる投資と
安定的・持続的な配当を実現させる

配当方針

企業価値向上と持続的な成長に繋がる投資を優先的に実行することが結果としてステークホルダー共通の利益に資する考えに加え、株主に対する利益還元についても経営の重要施策とし、安定的・持続的に配当を行うことを方針とし配当性向を30%以上とする



2022年3月期 業績予想

Forecast



©2021 YUSHIRO CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.
All Rights Reserved.

業績予想の前提

	前提内容
日本	自動車メーカーによっては半導体不足の影響はあるものの、通年での影響は小さいと予想。当社の業績も自動車生産台数の増加に伴い緩やかに回復し、2019年に近い業績になる見込み。
南北アメリカ	クオリケム社の業績は回復し2019年実績を上回る見込み。アメリカの既存会社、メキシコ及びブラジルの各拠点も自動車生産台数の増加に伴い2019年実績には及ばないが順調に回復する見込み。
中国	昨年4月以降の回復基調が続いており、今後も継続する見込み。
東南アジア / インド	タイ、マレーシア及びインドネシアの業績は徐々に回復すると予想しております。 新型コロナウイルス感染が更に拡大したインドも通年では2019年並みの実績になると予想。

2022年3月期 業績予想（連結）

- 売上高：自動車生産の回復に伴い順調に売上高は回復に。
- 営業利益：原材料価格上昇のリスクはあるが増収効果により増益に。

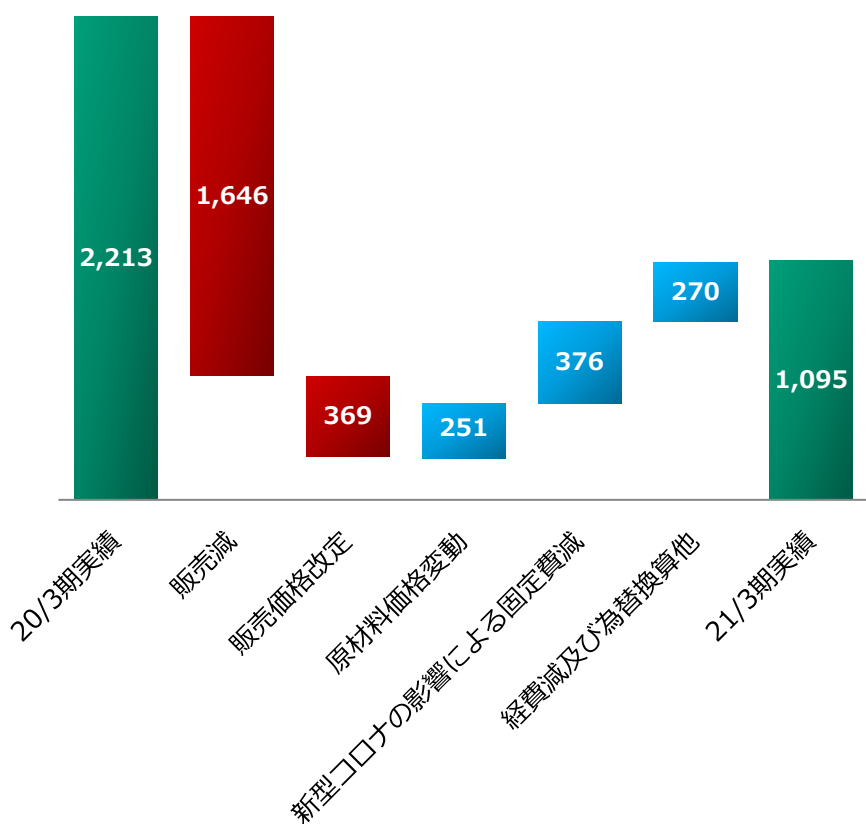
（百万円）

	21/3期実績	22/3期予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	31,661	36,000	+4,338	+13.7%
営業利益	1,095	1,800	+704	+64.3%
経常利益	1,517	2,100	+582	+38.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	978	1,300	+321	+32.9%

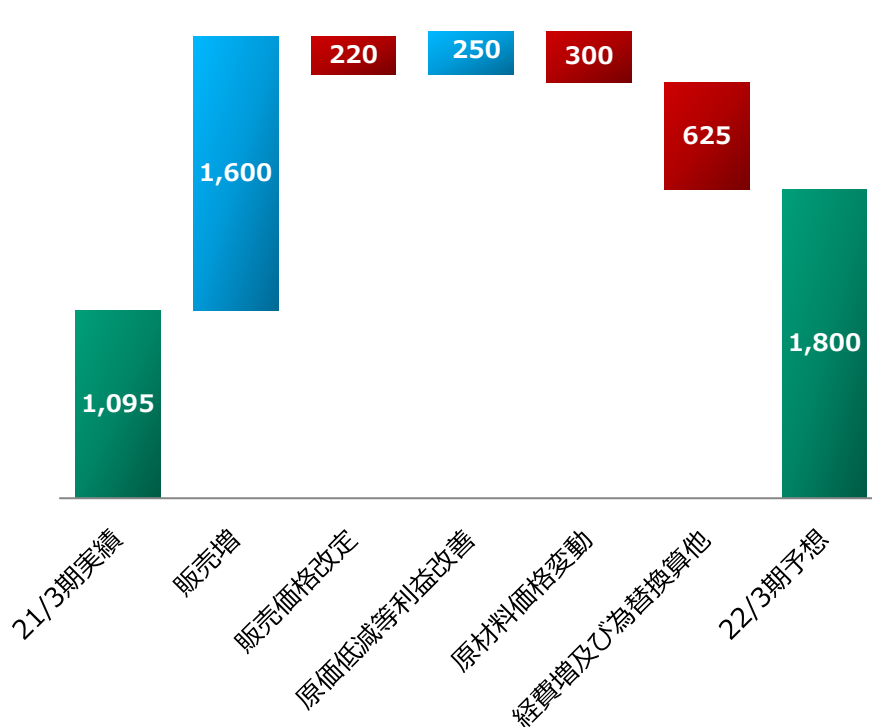
2022年3月期 営業利益（連結）増減要因分析

- 販売価格改定、原材料価格変動、経費増及び為替換算他のマイナス要因はあるものの、国内及び海外の自動車生産台数の回復に伴う販売増及び原価低減等利益改善の推進により、増益を見込む。

実績（百万円）



予想（百万円）



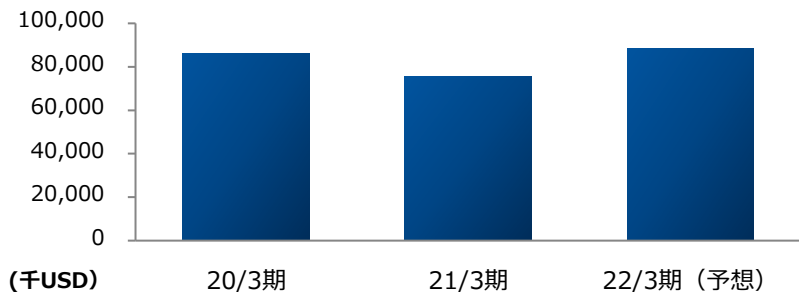
海外連結子会社売上高予想（現地通貨） アメリカ・ブラジル・メキシコ・中国

アメリカ



クオリケム社の増収により、20/3期の水準まで回復する予想。

22/3期(予想) : 21/3期比 117.3%、20/3期比 102.6%

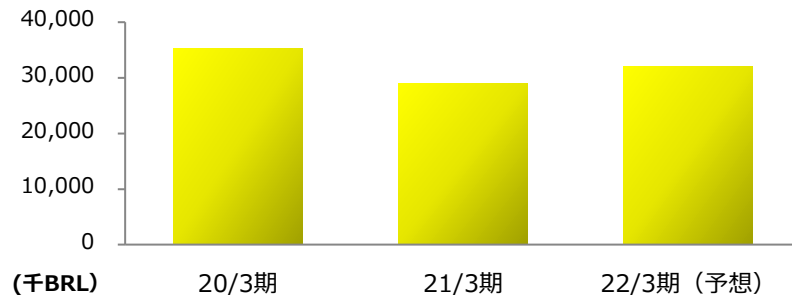


ブラジル



顧客の稼働率はコロナ前の水準までには戻らないと予想。

22/3期(予想) : 21/3期比 110.8%、20/3期比 91.0%

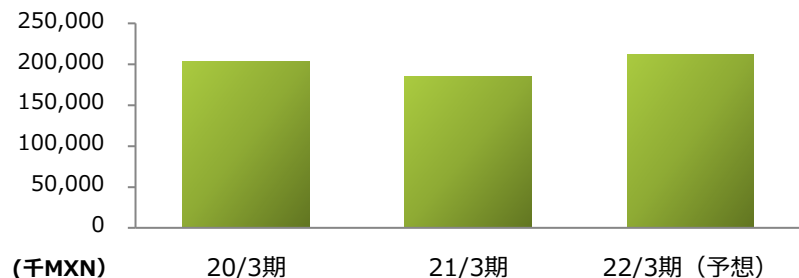


メキシコ



感染拡大後の自動車生産が早期に回復したため、20/3期の水準まで回復する予想。

22/3期(予想) : 21/3期比 114.6%、20/3期比 104.3%

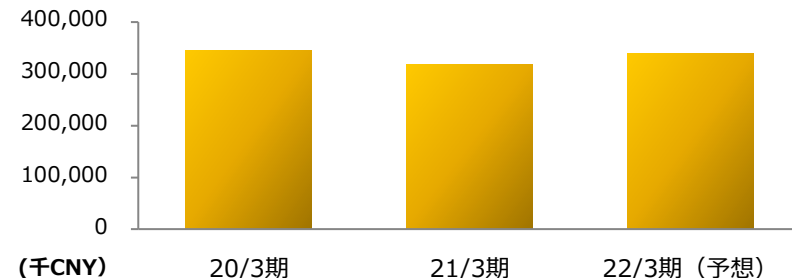


中国



感染拡大後の自動車生産が早期に回復したため、20/3期の水準近くまで戻る予想。

22/3期(予想) : 21/3期比 106.8%、20/3期比 98.2%



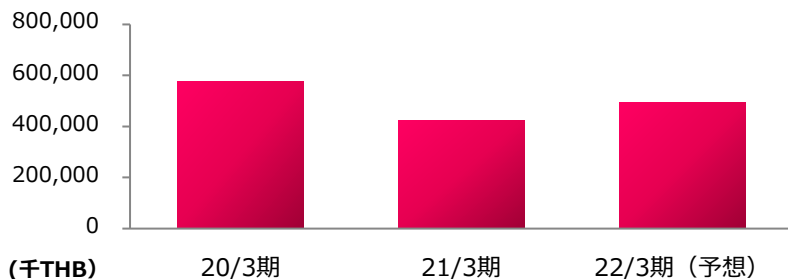
海外連結子会社売上高予想（現地通貨） タイ・インド・マレーシア・インドネシア

タイ

顧客の稼働率はコロナ前の水準までは戻らないと予想。



22/3期(予想) : 21/3期比 116.4%、20/3期比 85.5%

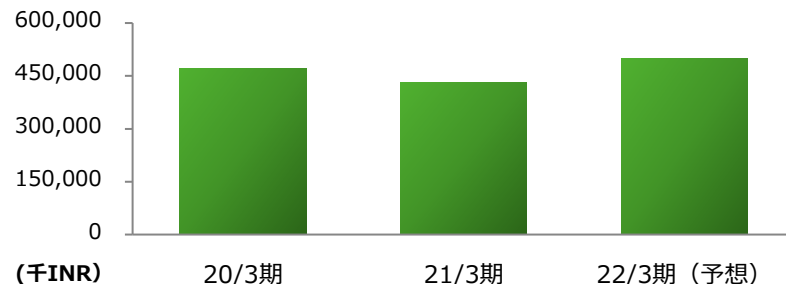


インド

2021年3月期の後半より主要顧客の生産が堅調に推移したため、20/3期の水準まで戻ると予想。



22/3期(予想) : 21/3期比 115.8%、20/3期比 106.5%

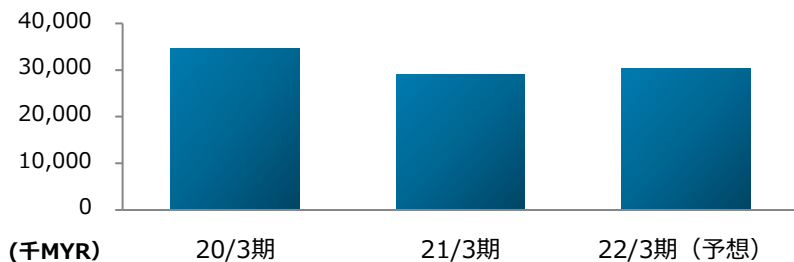


マレーシア

自動車購入時の減税措置の期限が6月で切れる影響はあるが緩やかに回復すると予想。



22/3期(予想) : 21/3期比 104.6%、20/3期比 87.5%

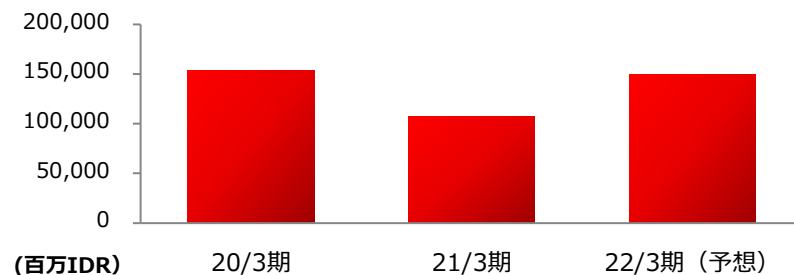


インドネシア

感染拡大の影響が長引いたが、自動車生産はコロナ前の水準まで回復することで20/3期の水準近くまで戻る予想。

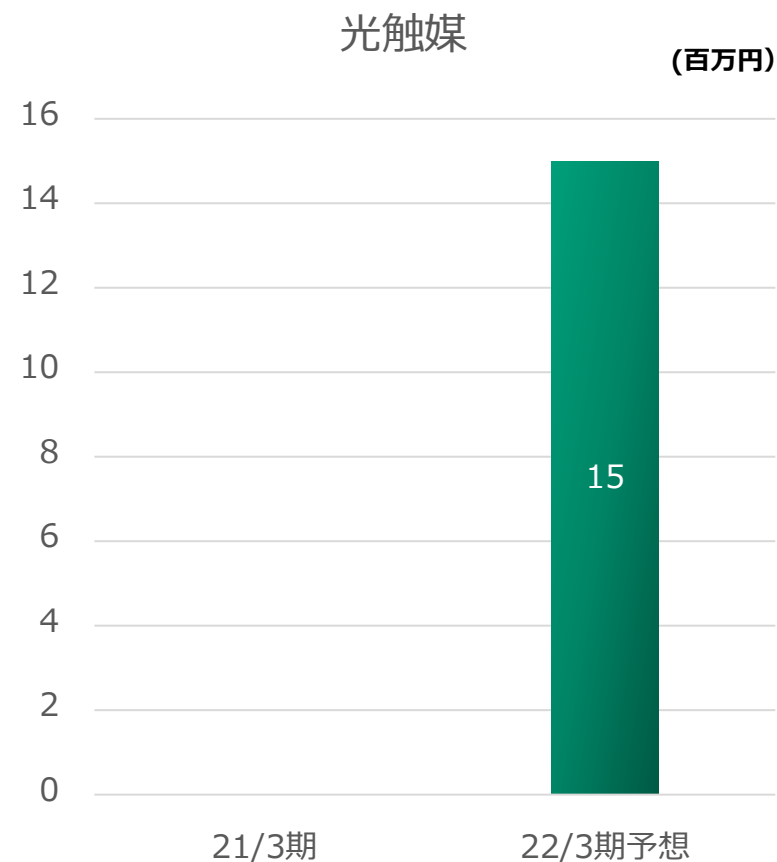
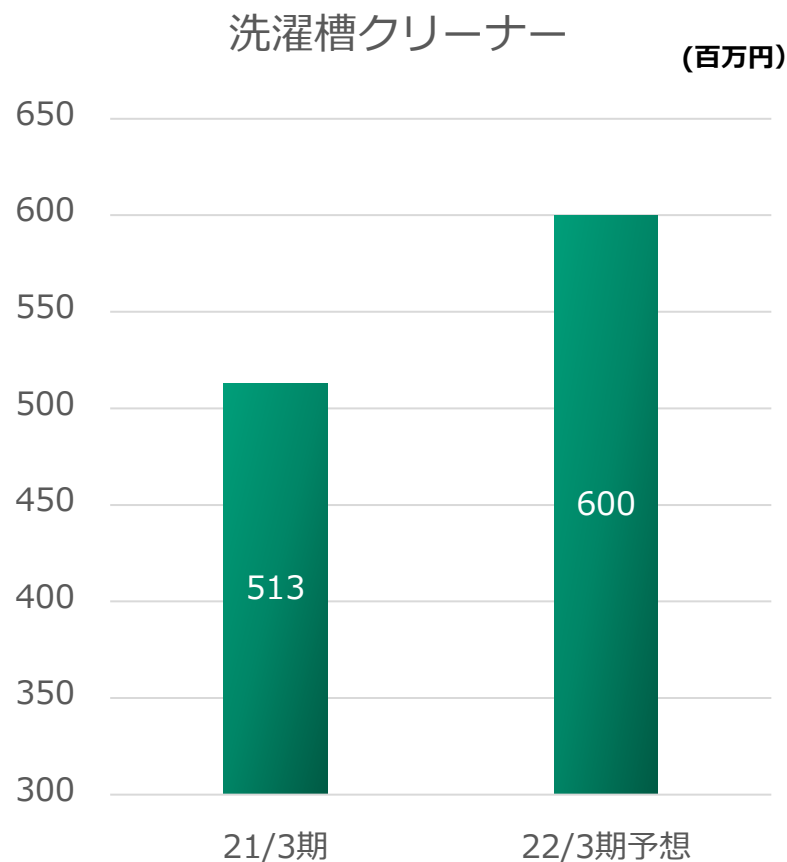


22/3期(予想) : 21/3期比 140.1%、20/3期比 97.5%



新規事業の売上高予想

- 洗濯槽クリーナー：2022年3月期の売上高は前期比17.0%増の600百万円と予想。
- 光触媒：今期の2Qに上市し、通年の売上高は15百万円を予想。





当資料取扱い上の注意

当資料に記されたユシノの現在の計画・見通し・戦略等のうち歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られたユシノの経営者の判断に基づいた、将来の業績に対する見通しであります。従いまして、これら業績の見通しのみにより全面的に依拠されることは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与え得るリスクや不確定な要素には、以下のものが含まれます。

- ①ユシノグループの事業環境を取り巻く世界情勢
- ②世界の原油価格動向
- ③米ドルを中心とした為替レートの変動
- ④偶発事象 等

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確定な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでユシノをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。

A dynamic splash of clear water against a light blue background, with ripples spreading across the surface.

参考資料

A background pattern of light-colored hexagons, some with thin green or purple outlines, creating a molecular or crystalline structure.

Appendix

会社概要

会社概要（2021年3月末現在）

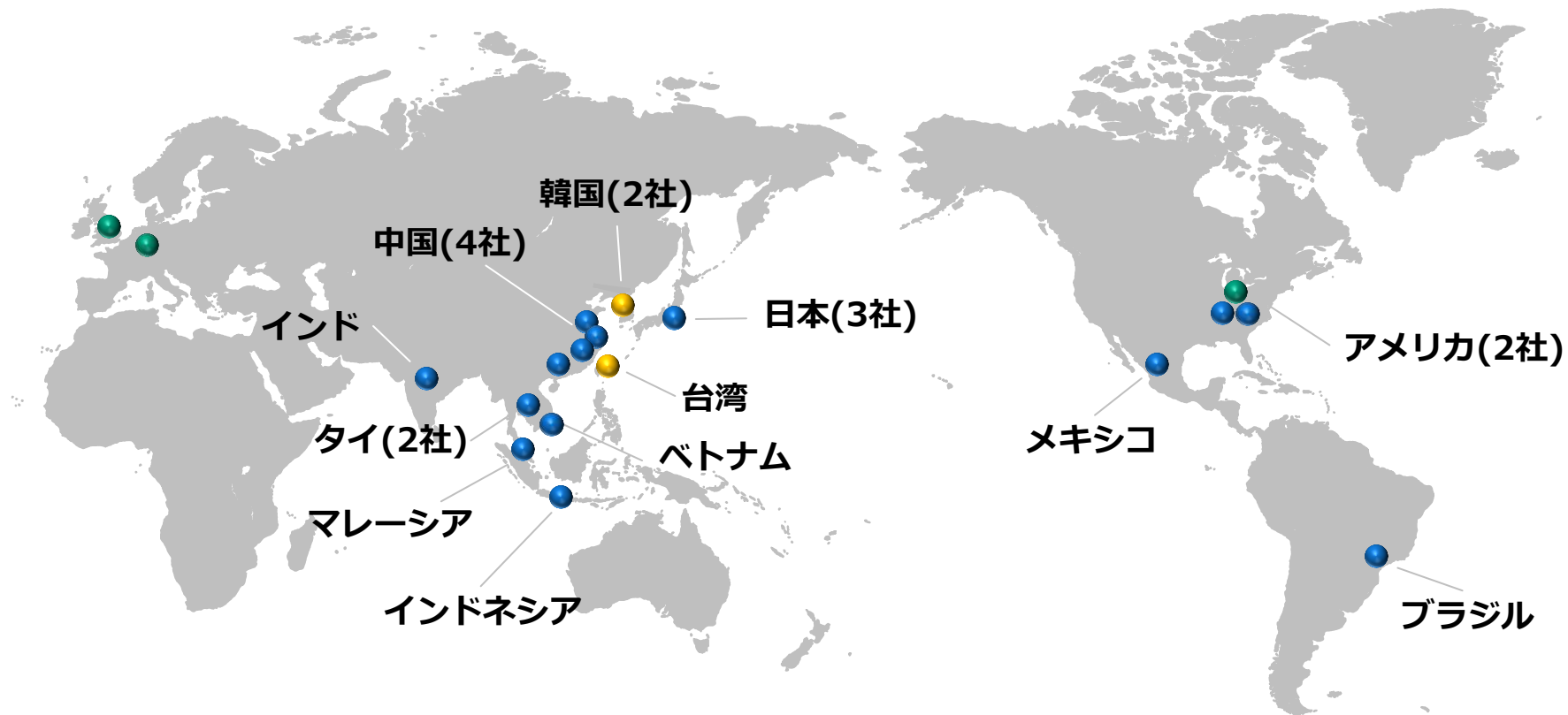
社名	ユシロ化学工業株式会社 (英文名称：Yushiro Chemical Industry Co.,Ltd.)
本社	東京都大田区千鳥2丁目34番16号
代表者	代表取締役社長 大胡 栄一
創立	昭和19年7月24日
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・金属加工油剤(切削油剤、圧延油剤、引抜油剤、プレス油剤、ダイカスト離型剤、さび止め油剤、洗浄剤等)の製造・販売 ・ビルメンテナンス製品（フロアメンテナンス用ワックスおよび剥離剤、洗浄剤、メンテナンス用機器）の製造・販売
資本金	4,249百万円
連結子会社	<p>(国内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本シー・ピー・ケミカル株式会社（化学品製造・販売） ・ユシロ運送株式会社（製品輸送） ・ユシロ・ゼネラルサービス株式会社（ユシロ運送の倉庫管理業務） <p>(海外)</p> <p>北米、南米、アジア地域に合計14社のネットワークを有しています。</p>
従業員数	単体：306名 連結：994名

海外ネットワーク詳細

地域	国	社名	住所
北米	アメリカ	YUSHIRO MANUFACTURING AMERICA,INC.	米国インディアナ州 シェルビービル市
		QualiChem,Inc.	米国バージニア州セイラム市
	メキシコ	YUSHIRO MEXICO S.A.DE C.V.	メキシコ国 グアナファト州
南米	ブラジル	YUSHIRO DO BRASIL INDUSTRIA QUIMICA LTDA.	ブラジル国 サンパウロ州カサパバ市
アジア	中国	上海尤希路化学工業有限公司	中国上海市宝山区
		啓東尤希路化学工業有限公司	中国江蘇省啓東市
	タイ	YUSHIRO(THAILAND)CO.,LTD.	タイ国チョンブリ県
	マレーシア	YUSHIRO MALAYSIA SDN.BHD.	マレーシア国 セランゴール州プジョン
	インドネシア	PT.YUSHIRO INDONESIA	インドネシア国 西ジャワ州カラワン県
	ベトナム	YUSHIRO VIETNAM CO.,LTD.	ベトナム国ホーチミン市 *非連結子会社
	インド	YUSHIRO INDIA COMPANY PRIVATE LIMITED	インド国 ハリヤナ州グルグラム
	台湾	三宜油化股份有限公司	台湾台北市
	韓国	汎字化学工業株式会社	韓国ソウル特別市

ユシログループ 国内外ネットワーク

- 子(孫)会社 (国内3社、海外14社)
- 持分法適用会社 (海外3社)
- 技術提携会社 (海外3社)



財務データ推移

(百万円)

	11/3期	12/3期	13/3期	14/3期	15/3期	16/3期	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期	21/3期
売上高	23,135	23,482	24,217	26,833	29,061	30,680	29,605	31,565	35,170	37,274	31,661
営業利益	2,078	878	881	1,409	1,569	2,169	2,437	2,502	2,076	2,213	1,095
経常利益	2,464	1,298	1,615	2,285	2,521	2,947	3,017	3,243	2,634	2,718	1,517
当期純利益	1,435	693	1,052	1,495	1,703	1,993	1,697	2,228	1,724	1,913	978